

今号の内容

- 私の難波田城ガイド日記
- 図録紹介「富士見之板碑」
- ミニほうきづくり
- 村の葬列と葬具
- 春のイベント予定

私の難波田城ガイド日記

市民学芸員 天野 由利子



公園内城跡ゾーンより、資料館・十玉院墓地を臨む

市民学芸員養成講座の最終日、園内ガイドの実習で資料館を出ようとした時に、急にまわりがざわめいた。何あれ？

見やると橋のもとに細長い小動物らしき姿が。サツと横の植え込みに消えた。イタチ？ 追手門にさしかかったところで急に空が暗くなり突風が吹き抜ける。中世の武士の怨霊か。土埃のなか城跡ゾーンを回る。すると、十玉院墓地の前で黒猫クンがお出迎え。黒猫は魔除け、そして福の神。私たちを守ってくれていたのか… 風も弱まる。実習を交えながら古民家見学。最後は囲炉裏にあたりながら薬草茶をごちそうになり終了。あれっ？ 古民家ゾーンにある売店の店頭に並んでいた地元の新鮮な野菜が売り切れている。しまった！ 先に買っておけばよかった。

晴れた朝、西門の前に富士山がくっきり浮かぶ。ガイドを始めて早2年。初めの頃は90分もかかってしまったけれど（拙いガイドに最後までお付き合いくださったお二人に感謝）やっと所定の40分に近づけるようになり、1日3回立て続けに務めたことも。

でもそういう日は稀。若い人たちはスマホのガイドで回っているみたい。もう人間のガイドは要らないのかな。

ガイドツアー参加の方々の観察力は豊か。合間にめざとく何かを見つけ出してくださる。ヘビ、カエル、小鳥、樹木の花、etc. どうやらここは歴史の他にも興味をそそるものがあるようだ。急に弾んだ声が聞こえた。

「あっ、黒猫がいるよ。」

えっ？ ワオーラッキー!! 今日は良い日だ。

難波田城公園では、土日祝日に園内ガイドツアーを行っています。ご案内するのは市民学芸員と呼ばれる私たちボランティアです。この文は私が市民学芸員になって2年間の日記の一部を抜粋したものです。

今年は3年毎に開催される市民学芸員養成講座の開催年にあたります（8月開始）。

この機会に皆さんも富士見市の歴史を学んでみてはいかがでしょうか。



市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

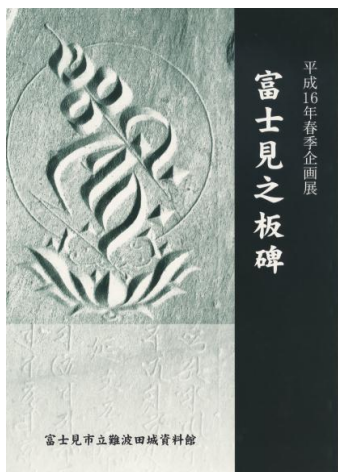
図録『富士見之板碑』

板碑(いたいしうば)は、中世(鎌倉・室町・戦国期約400年間)を代表する石造物で、富士見市内では石造物の中で最も多く600基以上も確認されています。そんな板碑を本図録では写真を多く取り入れ紹介しています。以下、その概要です。

①板碑造立の目的・・・初期は、武士や僧侶が戦乱の続く中、極楽浄土への往生を説く仏教に救いを求め、死者の冥福を祈る追善供養や生前に自分の冥福を祈る逆修供養を目的として造立しました。その後、庶民にも広がり、月待・庚申待など民間信仰の流行による結衆板碑も立てられました。

②板碑の特質と保管・・・県内の板碑は、秩父や比企地方で産出する軟らかく剥離加工しやすい緑泥片岩を石材としていて「武蔵型板碑」といわれ、県外でも多数確認されています。板碑は持ち運びも可能なため、現在では多くは寺院やお堂、墓地に集まり、難波田城資料館にも多数所蔵されています。

③板碑の宗教的特徴・・・板碑の多くは大きく頂部(主に山形で二条線の切り込み)、塔身部、基部(主に立てやすい舌状)の三部に分けられ、最大の特徴は塔身部の種子という、仏や菩薩を表す符号のような梵字で、これぞ板碑といった感じです。(少数ですが梵字でなく画像仏の物もあります)



A4判 19 ページ 300 円で販売中
④私年号板碑・・・「福德」「徳応」など正式の年号ではない私年号が使われていることがあり富士見市でも4基確認されています。私年号は当時の相次ぐ天災、飢饉、疫病などから逃れたいと願った改元の噂が広がったといわれています。(磯部正博)

おもしろ・なつかし体験 ⑦5

ミニほうきづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

令和4年11月26日、体験イベント「ミニほうきづくり」が行われました。イベントで作るミニほうきは、伝統的なほうき作りの基本を押さえつつ、初めての人でも2時間程度で出来るよう工夫したものです。材料の「ホウキモロコシ」が自家栽培なので多くの方に体験してもらえないのが悩みです。

難波田城でのミニほうきづくりは、10数年前の稲穂のほうき(ミゴほうき)が最初です。園内の田んぼでとれた稲を使い、夏休みの古民家宿泊体験や、ちょこっと体験で、市民学芸員が指導して行ってきました。

その後、平成28年の企画展「ほうきと竹かご」がきっかけとなり、平成31年に私たち市民学芸員の有志と市民の方とで「ほうき作り伝承会」を設立しました。今回のイベントは資料館の主催で、指導は伝

承会が行いました。

このイベントも今回で3回目。伝承会の技術も向上し、様々な形のほうきが作れるようになりました。来年度以降も地元の座敷ほうき作りの文化を皆さんに知っていただくため、色々なほうきを作る機会を提供できればと思います。

(小森和雄)



人の創ったもの★人の使ったもの

村の葬列と葬具

令和5年3月11日(土)～6月11日(日)の間、企画展「なき人を送る一墓と弔いの歴史ー」を開催します。ここでは、市内山室地区の共栄会というクミアイ(組合)が葬列に用いた葬具を紹介します。

霊柩車がない頃

霊柩車が普及する前、1980年代頃まで、同地区では、近隣の家々から構成される組合の互助によって、遺体が納められた棺を人力で寺院や墓地まで運んでいました。これは葬列と呼ばれ、葬儀の行程の中でも特に重要視されていました。

お棺と輦台

お棺を寺院や墓地まで運ぶのに使用されたのが輦台と呼ばれる担ぎ台です。輦台は、全長270cmあり、お棺を乗せる部分は、約70cm×60cmです。現在のお棺は長方形の寝棺が一般的ですが、この輦台に乗せるのには不向きです。この輦台が製作された頃は寝棺ではなく、正方形の座棺でした。座棺の上にはガンブタと呼ばれる飾りをつけています。ガンブタは他地域では天蓋とも呼ばれるもので、紙製の飾りで彩られています。



ガンブタ(大)・座棺(模型)・輦台

お棺の周り

葬列は、お棺を運ぶ人物だけでなく、その前後に位牌を持つ人物や魔除けのモノを持つ人物など多くの人によって執り行われていました。この際に用いたものの中にシシガシラと、小さいガンブタがあります。

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

シシガシラは5個、小さいガンブタは1個あり、シシガシラの4個は単独で、1個はガンブタとセットで使用されました。

シシガシラは葬列の先頭に来るモノで、他の地域では竜頭とも呼ばれます。これに、竹に半紙を巻いて作った耳を差し込み、持ち手として約3mの青竹を差し込みます。さらに口の中に赤い紙を貼り、舌を表現します。

出棺までは、魔除けの意味合いを込め、家屋の屋根に立てかけるようにしておきます。出棺後、葬列の最中にシシガシラが落ちてしまうと不幸があるとされ、慎重に運びました。

そして小さいガンブタは、先端にシシガシラを取り付けた青竹にぶら下げるようにしました。出棺までは大きいガンブタの上に添えるように置いておき、出棺後は棺よりも前を歩きました。

魔除けや飾りなどの存在からもわかるように、葬列は単なる作業ではなく、葬送儀礼の一部で重要なものでした。



シシガシラとガンブタ(小)

今回の企画展では、これらの資料を実際に展示します。これまでの葬送やお墓の変遷を知っていただき、今後について考える手がかりとしていただければと思います。(菅沼慎太郎)

＊＊春のイベント予定＊＊

掲載したイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更となる場合があります。

●春期企画展

「なき人を送る-墓と弔いの歴史-」

古来、人々は故人を偲び、さまざまな方法で弔ってきました。古代より葬送や墓制は常に変化し続けています。市域を中心としたその変遷を考古資料や古文書などを用いて紹介します。

とき／3月11日(土)～6月11日(日)

会場／特別展示室

企画展関連講演会

「都市近郊における葬送墓制の変遷」

とき／3月25日(土) 午後1時30分～3時

会場／特別展示室

定員／30名(無料、申込順)

講師／山田慎也氏(国立歴史民俗博物館教授)

申込／3月1日(水)から電話で

●ちよっ蔵市「草もち」

とき／3月26日(日)午前11時より

価格／1パック350円 ※売り切れ次第終了

場所／旧金子家住宅

主催／難波田城公園活用推進協議会

●古民家コンサート

チェロとピアノの演奏をお楽しみ下さい。

とき／3月26日(日) 午後2時～2時30分

会場／旧大澤家住宅

定員／30名(無料、申込順)

出演／デュオ・マエストロズ Duo Maestoso

申込／3月1日(水)から電話で

●ふるさと探訪

赤塚城(板橋区)界隈の史跡めぐり

とき／4月22日(土)午前9時～12時30分

集合／東武東上線下赤塚駅北口改札 ※小雨決行

主な見学地／松月院、赤塚植物園、不動の滝、赤塚

城本丸跡、区立郷土資料館

定員／20人(申込順)

持ち物／飲み物、雨具

参加費／500円(保険料等、当日集金)

申込／4月1日(土)から20日(木)までに電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●ちよっ蔵市「かしわ餅」

とき／4月23日(日)午前11時より

価格／1パック350円(3個入り)※売り切れ次第終了

場所／旧金子家住宅

●ちょこっと体験「よろいを着てみよう」

とき／5月21日(日)午前10時～正午、午後1時～3時

対象／幼児(5歳以上)～大人

会場／旧金子家住宅

定員／30分ごとに5人(計40人 無料、申込み順)

協力／川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

申込み／4月29日(土)午前9時から電話で

●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。

定員／15組(1組4人以内、申込順・申込多数の場合は初参加者優先)

対象／市内在住者を含む家族又は友人

参加費／1組1000円(年間。材料費・通信費等)

申込／4月1日(土)から電話で

農業指導／柳下春良氏(地元農家)

日程／

回	内容	日付	時間
1	種まき・田うない	5/20(土)	14～16時
2	しろかき・田植え	6/17(土)	14～16時
3	草取り(1回以上参加)	7/1(土) 7/22(土)	10～11時
4	かかしづくり	7/29(土)	10～12時
5	稲刈り	10/14(土)	14～16時
6	脱穀	10/28(土)	14～16時
7	もちつき、わら細工	12/16(土)	10～12時

●難波田城公園まつり

6月4日(日)に開催予定です。

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日10:30～

※各イベントの詳細は、広報ふじみ、公式サイトなどでお確かめください。

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



なんばたじょう
難波田城
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト